

# 高齢化大都市圏で加速

## 全都道府県30%超

### 2040年推計

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は27日、2040年までの「地域別将来推計人口」を発表した。全ての都道府県で人口が減少に転じる時期を2025年以降とし、25～30年と予想した前回(07年公表)の推計(2035年まで)より5年、早めた。65歳以上が人口に占める高齢化率も、40年には全都道府県で30%を超える。大都市圏での高齢化が一層進むとも予想しており、少子高齢化と人口減のスピードが加速していることを示している。

〈解説2面〉

### 人口減、20年から

10年の国勢調査では全国の総人口は約1億2806万人で、40年には約1億728万人に減る。40年の総人口が10年比で多くなる市区町村数は80(全体の4・8%)で、少なくとも1603(同95・2%)。7割の市区町村で人口が2割以上減少し、385(22・9%)市区町村で4割以上、人口が減ると推計した。

◆都道府県の高齢者(65歳以上)人口の予測割合

地域	2010年の高齢化率(%)	2040年の予測高齢化率(%)
全国	23.0	36.1
北海道	24.7	40.7
青森	25.8	41.5
岩手	27.2	39.7
宮城	22.3	36.2
秋田	29.6	43.8
山形	27.6	39.3
福島	25.0	39.3
茨城	22.5	36.4
栃木	22.1	36.3
群馬	23.6	36.6
埼玉	20.4	34.9
千葉	21.5	36.5
東京	20.4	33.5
神奈川	20.2	35.0
新潟	26.3	38.7
富山	26.2	38.4
石川	23.7	36.0
福井	25.2	37.5
山梨	24.7	38.8
長野	26.5	38.4
岐阜	24.1	36.2
静岡	23.8	37.0
愛知	20.3	32.4
三重	24.3	36.0
滋賀	20.7	32.8
京都	23.4	36.4
大阪	22.4	36.0
兵庫	23.1	36.4
奈良	24.0	38.1
和歌山	27.4	39.9
鳥取	26.4	38.2
島根	29.1	39.1
岡山	25.2	34.8
広島	24.0	36.1
山口	28.0	38.3
徳島	27.0	40.2
香川	25.9	37.9
愛媛	26.7	38.7
高知	28.8	40.9
福岡	22.3	35.3
佐賀	24.6	35.5
長崎	26.0	39.3
熊本	25.7	36.4
大分	26.6	36.7
宮崎	25.8	37.0
鹿児島	26.5	37.5
沖縄	17.4	30.3

都道府県別で人口減少率が最も高いのは秋田で、10年比で35・6%減少。次いで、青森の32・1%減、高

知の29・8%減の順。65歳以上が総人口に占める高齢化率が40%以上の市区町村の数は、10年の87(5

15歳未満の人口の割合が10%以下に減る。また、10年から40年にかけて65歳以上人口が1・4

倍に増える。全国平均では40年の高齢化率は36・1%。逆に、1992(11・4%)が40%以上も9(0・5%)から167(9・9%)に増える。大都市圏の進展が顕著だ。

同研究所では「大都市の高齢化は経済や社会保障全体に影響を与える。(サード)提供のあり方など」給付と負担の両面から対応策を議論する必要がある」としている。

地域別将来推計人口 直近の国勢調査に基づき、30年後までの都道府県別、市区町村別の人口の変化などを推計した。5年ごとに公表される。今回は2010年の国勢調査に基づいており、日本全体の将来人口については、50年先までを予測したものが昨年1月に公表済み。出生率と死亡率や、人口移動率などを仮定し、算出する。

倍以上に達する見通しなのは、東京、埼玉、千葉、神奈川、愛知、滋賀、沖縄の7都県で、大都市を抱えるところが目立ち、農村部などで先行していた高齢化が大都市にも押し寄せていることが浮き彫りになった。

※は2010年から2040年にかけて高齢者人口が1.4倍以上に増加する都県